

公表

保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援はぐみープラス			
○保護者評価実施期間	2025年3月1日		～	2025年3月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	7名
○従業者評価実施期間	2025年2月28日		～	2025年3月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○訪問先施設評価実施期間	2025年3月1日		～	2025年3月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	13施設	(回答数)	10施設
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達障害や特別な配慮を要する子どもへの対応経験が豊富である公認心理師が対応していること	訪問先の先生が取り組みやすい支援を具体的にお伝えしている。	必要な時に、電話などですぐ相談に応じることができるようにしている。
2	訪問先との信頼関係を大切にし、訪問先の園や学校の方針や日々の流れを尊重した支援を考えること	現場理解と共感を大切にしている。伴走型の姿勢に取り組んでいる。	先生の立場としてできることの選択肢をお伝えしていく。
3	園・家庭・療育先の三者が円滑に機能していくように努めていること	三者をつなぐ“橋渡し役”としての立ち位置を強めている。	園は“日常の関わり”、家庭は“生活の中のサポート”、療育は“専門的なスキルの支援”など役割分担を明確にしていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園や学校、保護者に「どういう支援なのか」がうまく伝わっていないこと	保育所等訪問支援についてのアプローチ度が低い	チラシを作成するなど、積極的に保育所等訪問支援事業についてお伝えしていく。
2			
3			